

3-3. 酒にまつわる“句”

○ けさたと

「けさたと
のめやあやめの
とんたさけ」

宝井 其角

この句は、芭蕉の愛弟子（蕉門十哲の一人）酒豪で知られた宝井其角がこよなく愛した富田酒を詠んだものです。上から読んでも下から読んでも同じ回文になっています。今日は朝から 心置きなく 飲める日だ、さあ あやめの 富田酒を 心行くまで飲もう

宝井其角(1661年～1707年)

松尾芭蕉の高弟蕉門十哲の第一の門弟

長年の飲酒が祟って47歳で早世しています。

「けさたと会」

高槻市富田町の商店会の会員のみならず富田を愛する人の会です。

江戸時代の富田の酒造りは隆盛をきわめ、最盛期には24軒（29軒とも）もの造り酒屋があったと伝えられています。

その中心に位置したのが、清水市郎右衛門（屋号・紅屋）でした。

清水家は、関ヶ原の戦いのとき徳川軍に協力した功績で、凶作の時でも酒作りが許されるなどの特権的な酒造りの免許（由緒株）を与えられたといわれ、将軍御目見えも許される家柄となりました。

江戸の町にも知られた銘酒「富田酒」。

宝井其角の作と伝えられる、前後どちらから読んでも同じ回文（かいぶん）俳句がのこっています。

「けさたと のめやあやめの とんたさけ」

この句にある「あやめ」とは、紅屋の酒の銘柄で、当時、江戸にまで知られた銘酒でした。

江戸時代中期以降、灘の酒造業の勃興に伴って、生産量は次第に縮小され、さすがの紅家も幕末頃には酒造りをやめてしまいました。

しかし、酒造りの伝統は、現在も受け継がれ、今も2軒の造り酒屋が富田の地酒を守り続けています。

けさたと会の活動

(1) 酒蔵見学会

2月に「けさたと会」の酒蔵見学があります。

「けさたと会 新春酒蔵見学」で検索して頂くと内容が出て来ます。

(2) 春の野立て

4月三輪神社で「春の野立て茶会が開催されます。

「桜の花の下で野点を楽しむ!!」で検索して頂くと内容が出て来ます。

(3) お地蔵さんめぐり（スタンプラリー）

8月「けさたと会」 お地蔵さんめぐりがあります。

「地蔵盆祭り 子供のための祭り」で検索して頂くと内容が出て来ます。

(3) 秋祭り

10月「けさたと会」灯露祭・ジャンボ茶会

「富田のまちに幻想的な夜を演出する“灯露祭”」で検索して頂くと内容が出て来ます。